

誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて 「合理的配慮」を知っていますか？

令和3年1月1日から「芦屋市障がい者を理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまち条例」が施行されます

障がいのある人が、日常生活や社会生活の中で感じる生活のしづらさや不安。これらは、社会によって
作り出されたものが多く、周りの人の理解やサポートで、不便さや困難さが解消されることがあります。

障がいの有無で分け隔てられることなく、お互いの人格と個性を尊重し、みんなで一緒に生きていく
社会を実現するためには、「障がい」「障がいのある人」に対する理解や考えを深めていくことが大切です。



問い合わせ
障がい福祉課 ☎38-2043
FAX38-2178・38-2160

障がいを理由に差別するって どんなこと？

障がいがあることで、障がいのない人たちと異なる扱いを受けて困った、自分の障がいにあつた必要な工夫や、やり方をしてもらえなかったことはありませんか。

「障害者差別解消法」や「芦屋市障がい者を理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまち条例」では、「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮をしないこと」の2つの差別を禁止しています。



高いところに陳列された商品を取って渡す



窓口などで筆談、読み上げ、手話などを用いて手続きをする

たとえばこんな
合理的配慮が
求められています



写真や絵を使って分かりやすく説明する



車椅子を利用する人のために段差に携帯スロープを渡す

「不当な差別的取扱い」の禁止

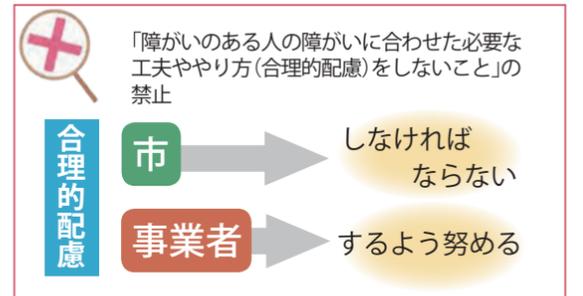
障がいのある人に対して、正当な理由がないのに入店を断るなど、障がいのない人と違う扱いをしたり、場所や時間を制限したり、障がいのない人には付けない条件を付けて、障がいのある人の権利利益を侵害することは、「不当な差別的取扱い」として禁止されます。

「合理的配慮をしないこと」の禁止

障がいのある人から、困っている時に、その人の障がいに合った必要な工夫ややり方を伝えられた場合、負担が重すぎない範囲で対応することを「合理的配慮」といいます。

※「合理的配慮」の方法は一つではありません。対応が難しい場合でも、お互いによく話し合い、代わりの方法を見つけていくことが大切です。

※負担が重すぎないのに、理由もなく対応を拒否することは合理的配慮をしないことになり、差別に当たります。



「芦屋市障がい者を理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまち条例」施行までの道

条例制定に向けて動き始めてから、ほぼ2年を費やし、ようやく条例が施行されます。

「盲導犬を連れているかたの入店はお断り」などの差別はいけません(障がいを理由とする差別)、また、障がいのある人が困っているのであれば配慮しましょう(合理的配慮の提供)、という2つのことを守ることが、条例を制定するきっかけとなった「障害者差別解消法」の根幹となる部分になります。この法律を地域の中で定着させるために、今回芦屋市では条例をつくることにしました。

草案作成時にいろいろ調べたところ、すでに他市で制定されている条例の特徴を大きく分けると、事業者等が配慮を行うためにかかった経費を補助する制度と、障がいのある人に対する差別があり当事者間では解決しない紛争があった際に、中立的な立場で調停を行う制度のうち、いずれかを盛り込んでいる条例は頑張っている市だとわかりました。逆に言いますと、その2つとも条例に明記しないのであれば、そもそも差別解消法という法律があるため条例をつくる意味はありません。

芦屋市障がい者差別解消支援地域協議会という会議体で条例をつくりたいことを述べ、その後ワーキングチームをつくり、条例の内容

芦屋市障がい者差別解消支援地域協議会 会長 木下隆志氏
(兵庫県立大学大学院 教授)



について自由闊達(かつたつ)なご意見をいただきました。さまざまな立場の方から、本当に真剣な議論がなされたと思います。今回条例を施行するにあたり市内民間事業者を対象とした「合理的配慮提供支援助成事業」が創設されると聞き、この助成事業は真剣な議論の結果であったと考えています。

協議会で出された意見をまとめますと、意識して差別をするという人はいません。しかしながら、差別は「視線」、「態度」、「雰囲気」として常態化していることを確認しました。そして、誰もが「あたりまえ」と思っている日常の中に、実は差別が溶け込んでいます。例えば、昭和の時代における女性のお茶出しに似ています。今のご時世では受け入れられないこととなりますが、常態化して見過ごされている場合があるのです。障がいのある人は日常行為や作業中に差別をされていると感じています。これは私のイメージでは「灰色」で「サビついている」風景です。

この条例が潤滑油となり、さまざまな色を付けるためのものになってほしい。はやくいろいろな色が踊りだす風景を見たいと思います。